

第 33 回 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成 28 年 2 月 8 日（月） 13:30～16:30

1. 設楽ダム魚類検討会検討経緯

- ・ これまでの魚類検討会の経緯とその成果、保全検討の流れについて説明を行った。
- ・ ネコギギの保全対策について、試験湛水までの移植の実施を目標に、野外実験（飼育繁殖・放流実験）で移植技術の確立を行っていくことを再度確認した。
- ・ 野外実験については、段階的な評価を行いながら、本移植実験や本移植を進める方針について了解された。

2. モニタリング調査結果

- ・ モニタリング淵では、平成 26 年に引き続き平成 27 年も当歳魚の確認個体が少なかったことを報告した。要因として繁殖期の 7 月からの出水が影響している可能性があることを報告した。

3. 飼育繁殖状況

- ・ 平成 27 年は、水槽飼育では産卵の確認はできたものの稚魚を得ることはできなかったこと、屋外試験池では 3 ペアのうち 2 ペアから 73 個体の稚魚を得ることができたことについて報告した。稚魚の数が少なかった試験池はプラナリアが発生しており、今後の対策を報告した。
- ・ 水槽飼育については、餌や水温等の管理状況を踏まえ、その要因の分析・検証を行い、繁殖期の水温管理、水槽の大型化、産卵誘発などの改善を実施することを報告した。
- ・ 屋外試験池での飼育については、繁殖に成功した石組みの間隙や繁殖前後の行動観察結果などを分析した結果を報告した。
- ・ 過年度成功したギギの卵の搾出及び人工授精試験を再現できたことについて、その要因を分析した結果を報告した。また、ネコギギの人工授精試験の進め方については、雄の斃死個体を用いた試験を進める方針について報告した。
- ・ 系統保存施設については、遺伝的多様性の損失の観点から飼育個体数と遺伝的多様性との関係を考察し、飼育個体数を飼育方法等に合わせて今後詰めていくこととなった。
- ・ 繁殖用親魚の採捕方針については、繁殖用親魚や繁殖稚魚を採捕淵に戻すこと、個体群の存続に影響しない範囲での採捕により、絶滅確率の上昇を抑えた採捕とする案を提示し、了解された。

4. 繁殖場実験（野外で繁殖用巣穴の物理特性を把握する実験）

- ・ 繁殖利用された自然間隙の面的な位置、物理特性を屋外試験池と比較した結果は、傾向が一致していることを報告した。また、この結果から自然間隙の物理条件に基づく人工構造物による実験を継続することとした。

5. 放流実験

- ・ 今年度の放流実験結果について報告した。
- ・ 過年度より実験を行っている実験箇所 A では、平成 25 年に 37 個体を放流し、遺伝的多様性の確保のため平成 27 年に 25 個体を追加放流した。その後も個体の生存を確認していることから、保全対策工では繁殖までは確認されていないが、生息場所として機能していることを報告した。
- ・ 新規実験箇所 B では、個体が保全対策工で確認されなかったことから、利用箇所や餌環境、浮泥の状況を分析した結果を報告し、その結果を反映した複数の淵の環境改善を行うこととした。また、環境改善後は平成 26 年、平成 27 年の繁殖個体を用いて放流実験を行う方針について了解された。
- ・ 環境改善の実施にあたっては、繁殖に成功した屋外試験池の石組みの間隙及び繁殖場実験の成果を反映した新たな改善方法とすることとした。

6. 豊川におけるネコギギ流域保全

- ・ 生息適地モデルの解析結果については、降水強度、河床勾配による変数を用いることで、広域スケールで生息の可能性の高い区間が推定されつつあることを報告した。
- ・ 変数の過去の変化から生息に適さない区間の理由、生息しない区間の理由も考察することとした。
- ・ 今後は、環境改善を実施することで生息環境の改善が見込まれるより詳細な区間を推定する検討を行うこととした。

7. その他の魚類に関する検討

- ・ カジカについては、移植候補地点の生息可能個体数の推定を行った結果を報告した。今後、段階的な本移植の実験を実施し、定着率などの経過を観察する方針について了解された。
- ・ トウカイナガレホトケドジョウについては、生息ポテンシャルマップを作成し、生息に適した区間が推定されつつあることを報告した。今後、現地調査を加え生息ポテンシャルマップで確認された分布傾向を確認することとした。

8. 設楽ダム事業の工事の状況について

- ・ 仮設道路の施工にあたり、ネコギギが生息する淵に近い部分の基礎工事については、振動等の影響を小さくするため、繁殖期を避けて施工することを再度確認した。
- ・ 今後予定している転流工工事の影響区間については、当該区間に生息可能な淵が少ないこと、工事区間が限定的であることを考え合わせて、ネコギギが生息している場合には採捕を行うとともに採捕した個体を飼育繁殖し、放流実験に用いることを再度確認した。
- ・ 工事によるリスクを回避するための監視・管理の体制・緊急時対応について、今後検討し、報告することとした。

9. 今後の調査・検討予定

- ・ 今後の調査、検討予定について報告した。
- ・ 本日の意見を踏まえ、提示された各案を実行に移すこととなった。

以上